品質証明(SDS)

1．化学物質等及び会社情報

会社名	株式会社 創建
住所	東京都豊島区西池袋1-11-1 メトロポリタンプラザビル17F
担当部門	開発部
電話番号	03-5992-9231
ＦＡＸ番号	03-5992-6423
緊急連絡先	03-5992-9231
作成	2006年6月16日
改訂	2015年8月1日
推奨用途及び使用上の制限	：接着剤

MaterialsID 153

製品名：コ ン ク リ ー ト ボ ン ド

※シックハウス対策について
上記の製品はＦ☆☆☆☆です。（「１６．その他の情報」参照）

2．危険有害性の要約

ＧＨＳ分類

物理化学的危険性　：可燃性固体　区分１

健康に対する有害性　：急性毒性（吸入：蒸気）　区分４
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性　区分２Ａ
生殖毒性　区分１Ｂ
特定標的臓器毒性（単回暴露）　区分１（視覚器　全身毒性　中枢神経系）
特定標的臓器毒性（単回暴露）　区分３（麻酔作用　気道刺激性）
特定標的臓器毒性（反復暴露）　区分１（視覚器　中枢神経系）
上記で記載がない危険有害性は、分類対象外か分類できない。

ＧＨＳラベル要素

シンボル

注意喚起語　：危険

危険有害性情報　：H332　吸入すると有害
H336　眠気及びめまいのおそれ
H370　視覚器、全身毒性、中枢神経系の障害
H228　可燃性固体
H319　強い眼刺激
H360　生殖能又は胎児への悪影響のおそれ
H335　呼吸器への刺激のおそれ
H372　長期又は反復ばく露による視覚器、中枢神経系の障害

注意書き

安全対策　：使用前に取扱説明書を入手すること。（P201）
すべての安全注意を読み理解するまで取扱わないこと。（P202）
熱、火花、裸火、高温のもののような着火源から遠ざけること。―禁煙。（P210）
容器を密閉しておくこと。（P233）
容器を接地すること。アースをとること。（P240）
ミスト、蒸気、スプレーの吸入を避けること。（P261）
取扱い後はよく眼を洗うこと。（P264）
取扱い後はよく手を洗うこと。（P264）
この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。（P270）
屋外または換気の良い場所でのみ使用すること。（P271）
保護手袋、保護衣、保護眼鏡、保護面を着用すること。（P280）
指定された個人用保護具を使用すること。（P281）

救急措置　：吸入した場合、気分が悪い時は、医師に連絡すること。（P304+P312）

吸入した場合、呼吸が困難な場合には、新鮮な空気のある場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。（P304+P341）
眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。（P305+P351+P338）
ばく露した場合、医師に連絡すこと。（P307+P311）
ばく露した時、または気分が悪い時は、医師に連絡すこと。（P309+P311）
気分が悪い時は、医師に連絡すること。（P312）
気分が悪い時は、医師の手当て、診断を受けること。（P314）
特別な処置が必要である。（P321）
眼の刺激が続く場合、医師の診断、手当てを受けること。（P337+P313）
火災の場合には、適切な消火剤を使用すること。（P370+P378）

保管　：容器を密閉して、換気の良い場所で保管すること。（P403+P233）
施錠して保管すること。（P405）

廃棄　：内容物、容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。（P501）

3．組成及び成分情報

単一製品・混合物の区別　：混合物
一般名　：酢酸ビニル樹脂系溶剤形接着剤

成　分	濃度又は濃度範囲	化学特性	官報公示整理番号		CAS番号
			化審法	安衛法	
酢酸ビニル樹脂	25％～35％				
充填材等	30％～40％				
メタノール	25％～35％	CH_3OH	(2)-201	既存	67-56-1
酢酸ビニル	1％未満	$CH_2=CHOCOCH_3$	(2)-728		108-05-4
パリゴルスカイト（別名アタパルジャイト）	1％～10％				12174-11-7

分類に寄与する不純物及び安定化添加物　：情報なし

労働安全衛生法　：名称等を通知すべき危険物及び有害物
（法第５７条の２、施行令第１８条の２別表第９）
メタノール（政令番号：560）（25％～35％）
酢酸ビニル（政令番号：180）（1％未満）

化学物質排出把握管理促進（ＰＲＴＲ法）　：第２種指定化学物質（法第２条第３項、施行令第２条別表第２）
パリゴルスカイト（別名アタパルジャイト）（政令番号：73）（6.7％）

4．応急措置

吸入した場合　：吸入して、頭痛等の異常が生じた場合は速やかに新鮮な空気の場所に移し、安静・保温に努め速やかに医師の診断を受ける。

皮膚に付着した場合　：付着物を拭き取り、中性石鹸を使ってよく洗い落とす。外観に変化が見られたり、かゆみ、炎症等の症状が出た時は医師の診断を受ける。（汚染された衣服や靴は脱ぐ）

目に入った場合　：直ちに多量の水で15分間以上洗眼し、医師の診断を受ける。コンタクトレンズを使用している場合は、固着していない限り、取り除いて洗浄する。

飲み込んだ場合　：無理に吐かせないで、直ちに医師の診断を受ける。水で口の中を洗浄してもよい。被災者に意識がない場合は口から何も与えてはならない。

5．火災時の措置

消火剤　：粉末（ドライケミカル）・炭酸ガス・乾燥砂・耐アルコール泡（アルコールホーム）

特定の消火方法　：付近の着火源を断ち、消火剤を使用して風上から消火する。消火に際しては、保護衣を着用するほか、状況によっては不浸透性手袋、有機ガス用防毒マスクを着用する。

6．漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急措置　：漏出した場所の周辺にロープを張り、人の立ち入りを禁止する。作業の際は必ず保護具を着用する。

環境に対する注意事項　：大量の場合は、流出した接着剤の流出を土砂、土のう等で防止する。
廃棄は『廃棄上の注意』の項による。

回収・中和　：少量の場合は、紙や布で拭き取る。
：大量の場合は、火花の出ないシャベル等で密閉できる容器にすくい取る。

二次災害の防止策　：付近の着火源となる物を速やかに取り除き、消火器材を準備する。

7．取扱い及び保管上の注意

取扱い　：火気厳禁。溶剤による希釈や品種の異なる接着剤との併用及び混合はしない。
取り扱い場所及び作業箇所は換気を行ない、施工後も接着剤が硬化するまで、通常の換気（日常生活の程度、朝夕１～２時間）を行なう。
使用時は目・皮膚等への接触を避けるため適切な保護具（手袋・長靴・保護マスク等）を着用する。使用時及び取扱い箇所には、『火気厳禁』及び『立入禁止』の表示を行なう。一度開封した接着剤は、できるだけ早く使い切る。使い残した場合は密封して保管する。
作業中に身体に異常を感じた時は直ちに使用を中止し必要に応じて医師の診察を受ける。身体や衣服に付いた時は、速やかに石鹸水等で洗い落とす。
使用箇所及び貼り付け材料は、容器の表示を確認し使用する。

安全取扱い注意事項　：飲み込みを避けること。

保管　：貯蔵箇所は火気厳禁の表示を行ない『消防法』に従い貯蔵する。
直射日光を避け、容器を密閉して５℃～３５℃の環境で子供の手の届かない屋内に場所を定めて保管する。誤飲防止と食品への混入を避けるため、保管場所は食品と区別する。

技術的対策　：消防法・労働安全衛生法等の法令に従う。取扱い後・休憩前は手洗い、うがい、洗顔等を行う。
現場施工用接着剤です。食品への混入を避ける為、食品容器、給餌器等には使用できません。
使用済み容器などは、許可を受けた産業廃棄物処理業者へ処分を委託する。
河川・湖沼・下水道などへ廃棄したり、流入させない。
使用になる前には、商品容器の表示事項をよくお読み下さい。

8．暴露防止及び保護措置

管理濃度、許容濃度

	管理濃度（厚生労働省）	許容濃度（産衛学会）	ACGIH
酢酸ビニル樹脂	未設定		
充填材等	未設定		
メチルアルコール	200ppm	200ppm 260mg/m3(皮)	TWA 200ppm, STEL250ppm (Skin)
酢酸ビニルエステル	未設定		TWA 10ppm, STEL15ppm
パリゴルスカイト（別名アタパルジャイト）	未設定		

設備対策　：局所に排気装置等の排気のための装置を設置する。

保護具

呼吸器の保護具　：有機ガス用防毒マスクを着用する。
手の保護具　：不浸透性保護手袋（ポリエチレン・ゴム製等）を着用する。
眼の保護具　：保護メガネを着用する。
皮膚及び身体の保護具　：長袖作業着を着用する。

9．物理的及び化学的性質

物理的状態

形状　：パテ状
色　：灰白色
臭い　：アルコール臭

融点／凝固点　：データなし
沸点、初留点及び沸騰範囲　：（メタノール）　64.65℃
引火点　：11℃　（その他）
自然発火温度　：情報なし
蒸気圧　：メタノール　12.7kpa（95mmHg）　（20℃）
蒸気密度　：メタノール　1.11（空気1.0）
比重（密度）　：1.20～1.40（g/cm3）
溶解性　：水に不溶。
オクタノール／水分配係数　：情報なし
粘度　：500,000～700,000　mPa・S
その他　：揮発性：あり

メチルアルコールとして

融点／凝固点　：-93.9℃
沸点、初留点及び沸騰範囲　：64.1℃、59.4℃(610mmHg)、39.9℃(260mmHg)、15℃(73mmHg)

比重（密度）　：0.866(-59℃/4℃)、0.81(0℃/4℃)、0.8006(10℃/4℃)、0.7910(20℃)、0.7964(15℃/15℃)
溶解性　：水に可溶、エタノールに可溶、エーテルに可溶

酢酸ビニルエステルとして
融点／凝固点　：＜-84℃
沸点、初留点及び沸騰範囲　：73℃
引火点　：-5～-8℃
比重（密度）　：0.9287(25℃、20℃)、0.9342(20℃、20℃)、0.9398(15℃、20℃)
溶解性　：水：2.5ml（100ml、20℃）、0.1mlの水に100ml可溶（20℃）
粘度　：0.432cP（20℃）

１０．安定性及び反応性

安定性　：法規制に従った保管及び取扱いにおいては安定と考えられる。
危険有害反応可能性　：現在のところ知見なし。
避けるべき条件　：現在のところ知見なし。
危険有害な分解生成物　：現在のところ知見なし。

１１．有害性情報

急性毒性
経口　：ラット　LD50　5,628mg/kg　（メタノール）
経皮　：現在のところ知見なし。
吸入　：現在のところ知見なし。
皮膚腐食性／刺激性　：腐食性なし。
皮膚への刺激は比較的弱いが、液に繰り返し触れると乾性・りん状性及び亀裂性皮膚炎を起こす。
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性　：高濃度蒸気は目・喉・呼吸器等粘膜を刺激するが、作用は比較的弱く一時的なことが多い。
呼吸器感作性又は皮膚感作性　：なし。
生殖細胞変異原性　：現在のところ知見なし。
発がん性　：現在のところ知見なし。
生殖毒性　：現在のところ知見なし。
有害性その他　：慢性毒性…現在のところ知見なし。
催奇形性…現在のところ知見なし。
その他…容器表示項目　警告表示：『引火性あり』　『有害性あり』
禁止・注意：『火気厳禁』　『吸入注意』

メチルアルコールとして
急性毒性：経口　：ラット経口LD50値＝6200mg/kg(EHC 196(1997), ACGIH(7th, 2001), DFGOT vol.16(2001), PATTY(4th, 1994))、9100mg/kg(EHC196(1997), PATTY(4th, 1994))、12900mg/kg(EHC196(1997), DFGOT vol.16(2001), PATTY(4th, 1994))および13000mg/kg(EHC196(1997), ACGIH(7th, 2001), PATTY(4th, 1994))に基づき計算値は7939mg/kgとなり、動物実験の結果からは区分外と判断された。一方、メタノールの毒性はげっ歯類に比べて霊長類には強く現れるとの記述があり(EHC196(1997))、ヒトで約半数に死亡が認められる用量が1400mg/kgであるとの記述(DFGOT vol.16(2001))があることから、区分５とした。
急性毒性：経皮　：ウサギ経皮LD50値＝15800mg/kg(DFGOT vol.16(2001), PATTY(4th, 1994)に基づき、区分外とした。
急性毒性：吸入（気体）　：ＧＨＳ定義による液体
急性毒性：吸入（蒸気）　：ラット吸入LC50（8H）＞22500ppm、, 蒸気圧=12.26kPa(20℃)、飽和蒸気圧濃度=121027ppm、22500ppm＜121027ppmx0.90から「ミストがほとんど混在しない蒸気」と考えられ、ppm濃度基準値で判定、LC50(8H)＞22500ppmからLC50(4H)＞31820ppm(20000ppm＜区分5≦50000ppmから区分５、区分外のいずれかであり、データ不足のため分類できないとした。
急性毒性：吸入（粉じん）　：データなし。
急性毒性：吸入（ミスト）　：データなし。
皮膚腐食性／刺激性　：DFGOT vol.16(2001)に、ウサギを用いた試験で24時間暴露後に脱脂作用により中程度の刺激性がみられたとの記述がある一方で、ウサギに20時間閉塞適用した別の試験では刺激性がみられなかったとの記述があり、4時間以内の暴露による試験データが得られなかったため分類できなかった。
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性　：EHC 196(1997), DFGOT vol.16(2001)およびPATTY(4th, 1994)に、ウサギを用いた試験で軽度ないし中程度の眼刺激性が認められたとの記述があるが、回復性については明らかな記述がないこと、およびヒトで角膜の障害、強度の結膜浮腫が一過性に認められていること(DFGOT vol.16(2001))から、区分２Ａ－２Ｂとした。

呼吸器感作性又は皮膚感作性　：呼吸器感作性：データなし。　皮膚感作性：ヒトの皮膚暴露例でアレルギー性接触皮膚炎の報告があるとの複数の文献を引用した記述（PATTY (4th, 1994)）はあるが、具体的な症例に関する記述はない。一方、モルモットを用いたMagnusson-Kligman maximization test で感作性は認められなかったとの記述（EHC 196 (1997) およびDFGOT vol. 16 (2001)）がある。これらの情報から皮膚感作性の有無を判断するにはデータ不足のため、分類できなかった。

生殖細胞変異原性　：マウス赤血球を用いる小核試験で陰性の結果 (EHC 196 (1997), DFGOT vol. 16 (2001), PATTY (4th, 1994)) があることから、区分外とした。

発がん性　：技術上の指針に示された機関において評価されていないため分類できない。なお、ラットおよびマウスを用いた吸入暴露による試験では、発がん性は認められていない (EHC 196 (1997), ACGIH (7th, 2001), DFGOT vol. 16 (2001) およびPATTY (4th, 1994) に、

生殖毒性　：妊娠ラットおよびマウスを用いた経口および吸入暴露試験で胎児奇形または胎児死亡の増加が認められたとの記述があるが、信頼性のあるヒト暴露例のデータがないことから、区分１Ｂとした。(EHC 196 (1997), DFGOT vol. 16 (2001) およびPATTY (4th, 1994) に雄ラットでテストステロン濃度の低下または精巣変性がみられたとの記述があるが、これとは逆に、雄の生殖器系への影響は認められないとの記述もあり、雄の生殖能力に対する影響は明らかではない。

特定標的臓器毒性（単回暴露）　：ヒトで急性経口または吸入暴露により中枢神経系の抑制および視覚器障害がみられるとの記述（EHC 196 (1997)、ACGIH (7th, 2001)、DFGOT vol. 16 (2001)、PATTY (4th, 1994) および産衛学会勧告 (1993)）や、ヒト暴露例で代謝性アシドーシスがみられるとの記述 (ACGIH (7th, 2001) およびDFGOT vol. 16 (2001)) から、標的臓器は中枢神経系、視覚器及び全身毒性と判断し、いずれも区分１とした。また、ラット反復吸入暴露試験で気道刺激性がみられたとの記述 (EHC 196 (1997) およびPATTY (4th, 1994))、およびヒトで粘膜刺激症状がみられるとの記述（産衛学会勧告）、また、ラット、マウス、アカゲザル等で麻酔作用が認められたこと (EHC 196 (1997) およびPATTY (4th, 1994)) から、気道刺激性および麻酔作用があると判断し、いずれも区分３とした。

特定標的臓器毒性（反復暴露）　：ヒトの長期暴露例で中枢神経系の抑制および視覚器障害がみられたとの記述 (EHC 196 (1997)、ACGIH (7th, 2001) およびDFGOT vol. 16 (2001)) から、標的臓器は中枢神経系および視覚器であり、いずれも区分１とした。

吸引性呼吸器有害性　：データ不足のため分類できない。

酢酸ビニルエステルとして

急性毒性：経口　：ラットを用いた経口投与試験の LD=2, 900mg/kg （環境省リスク評価第２巻 (2003)）に基づき、区分５とした。

急性毒性：経皮　：ウサギを用いた経皮投与試験の LD50=2, 335mg/kg （CERI・NITE有害性評価書 No. 60 (2004)）に基づき、区分５とした。

急性毒性：吸入（気体）　：GHSの定義による液体のため、ガスでの吸入は想定できず、分類対象外とした。

急性毒性：吸入（蒸気）　：蒸気圧=11kPa (20℃)、飽和蒸気圧濃度=110000ppm、LC50 (4H) =11. 4mg/L (NITE) =3237ppm<110000ppmx0. 90から「ミストがほとんど混在しない蒸気」と考えられ、ppm濃度基準値で判定、LC50 (4H) =3184ppm (2500ppm<区分4≦20000ppm) により、区分４とした。

急性毒性：吸入（粉じん）　：データなし。

急性毒性：吸入（ミスト）　：データなし。

皮膚腐食性／刺激性　：CERI・NITE有害性評価書No. 60 (2004) のウサギを用いた皮膚刺激性試験の結果、「軽度の刺激がみられた」から、区分３とした。

眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性　：CERI・NITE有害性評価書No. 60 (2004) のウサギを用いた眼刺激性試験の結果の記述「強度の刺激がみられた」から、区分２Ａとした。

呼吸器感作性又は皮膚感作性　：呼吸器感作性：データなし。　皮膚感作性：モルモットを用いたBuehlar法による皮膚感作性試験の結果、「6/20匹に陽性の反応が得られた」(CERI・NITE有害性評価書 No. 60 (2004)) ことから、区分１とした。

生殖細胞変異原性　：CERI・NITE有害性評価書No. 60 (2004)、DFGOTvol. 21 (2005)、IARC 63 (1995)、ATSDR (1992)、NTP DB (Access on February2006) の記述から、経世代変異原性試験なし、生殖細胞in vino変異原性試験（小核試験）で陰性、体細胞in vino変異原性試験（小核試験、染色体異常試験）で陽性、生殖細胞in vino遺伝毒性試験なし、であることから区分２とした。

発がん性　：ACGIH (2001) でＡ３、IARC (1995) でGroup２Ｂに分類されていることから、区分２とした。

生殖毒性　：CERI・NITE有害性評価書No. 60 (2004)、IARC 63 (1995)、ATSDR (1992) の記述から、ラット及びマウスの生殖毒性試験、催奇形性試験において、生殖毒性がないか、毒性学的な意義が少ない、または最小限な影響のみ誘発する結果が得られていることによる。

特定標的臓器毒性（単回暴露）：ヒトについては、「呼吸器に対する刺激性が認められた」(CERI・NITE有害性評価書No.60(2004))との記述があることから、気道刺激性を有するものと考えられた。したがって、分類は区分３（気道刺激性）とした。

特定標的臓器毒性（反復暴露）：ヒトについて、「上気道の炎症」（環境省リスク評価書第２巻(2003)）との記載、実験動物について、「肺炎と鼻炎、鼻腔嗅上皮の萎縮、粘液分泌腺の萎縮、鼻腔嗅上皮の扁平上皮化生と萎縮、基底細胞の過形成」(CERI・NITE有害性評価書No60(2004))との記載があることから、上気道を中心とした呼吸器が標的臓器と考えられる。なお、実験動物に対する影響は区分２のガイダンス値の範囲でみられた。以上より、分類は区分２（呼吸器）とした。

吸引性呼吸器有害性：データなし。

パリゴルスカイト（別名アタパルジャイト）として

急性毒性：経口：データがないので分類できない。

急性毒性：経皮：データがないので分類できない。

急性毒性：吸入（気体）：ＧＨＳ定義上の固体であるため、ガスの吸入は想定されず、分類対象外とした。

急性毒性：吸入（蒸気）：データがないので分類できない。

急性毒性：吸入（粉じん）：データがないので分類できない。なお、20℃での蒸発はごくわずかだが、分散すると迅速に浮遊粒子の有害濃度に達する。(ICSC(2005))との記述がある。

急性毒性：吸入（ミスト）：データがないので分類できない。なお、20℃での蒸発はごくわずかだが、分散すると迅速に浮遊粒子の有害濃度に達する。(ICSC(2005))との記述がある。

皮膚腐食性／刺激性：データがないので分類できない。

眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性：歯科助手の眼に直接接触した事例では、「severe」な前部ブドウ膜炎と角膜膿瘍を生じた（HSDB(2003)）との記述がある。回復性に関する記述がないため区分２Ａとした。なお、「本物質は、粘土鉱床において繊維鎖状鉱物として存在する」（IARC 68(1997))との記述から、本物質の眼に対する影響は、繊維状物質による機械的損傷によるものである可能性が推察される。

呼吸器感作性又は皮膚感作性：呼吸器感作性：データがないので分類できない。　皮膚感作性：データがないので分類できない。

生殖細胞変異原性：in vitro遺伝毒性試験としてラット肝臓培養細胞を用いる不定期DNA合成試験で陰性、ラット胸腺中皮細胞を用いる姉妹染色分体交換試験で陰性（IARC 68(1997))との記述があるが、in vino変異原性試験等のデータがないので分類できない。

発がん性：IARCが、本物質のファイバー長が5μmより長いものに限定してグループ２Ｂと評価している（IARC 68(1997))ことから、区分２とした。

生殖毒性：データがないので分類できない。

特定標的臓器毒性（単回暴露）：データがないので分類できない。

特定標的臓器毒性（反復暴露）：ラットを用いた12ヶ月間吸入暴露試験で、「気管支肺胞の過形成･･･がみられた。本物質の約20％はファイバー長が6μmより長い」（MAK/BAT（1993))旨の記述があり、この影響は区分１のガイダンス値の範囲内でみられた。以上より、区分１（呼吸器系）とした。なお、2μmより短いファイバー長の反復吸入暴露試験では、有意な影響はみられなかった（MAK/BAT（1993))との記述がある。

吸引性呼吸器有害性：データがないので分類できない。

１２．環境影響情報

環境に対する有害性

水生環境急性有害性：現在のところ知見なし。

水生環境慢性有害性：現在のところ知見なし。

生態毒性：現在のところ知見なし。

酢酸ビニルエステルとして

環境に対する有害性：水生環境急性有害性：魚類（ヒメダカ）の96時間LC50=2.39mg/L(CERI・NITE有害性評価書、2005)から、区分２とした。

水生環境慢性有害性：急速分解性があり（BODによる分解度：90％（既存化学物質安全性点検データ））、かつ生物蓄積性が低いと推定される（log Kow=0.73(PHYSPROP Database （2005)）ことから、区分外とした。

パリゴルスカイト（別名アタパルじゃイト）として

環境に対する有害性：水生環境急性有害性：データなし

水生環境慢性有害性：データなし

１３．廃棄上の注意

残余廃棄物：産業廃棄物〔廃油と廃プラスチック類の混合物〕として廃棄物の処理及び清掃に関する法律並びに都道府県条例等に基づく許可を受けた専門業者に委託する。使用済み容器、ウエス等も同様である。

１４．輸送上の注意

国際規制

海上規制情報	：ＩＭＯの規定に従う。
ＵＮ　Ｎｏ.	：1325
Proper Shipping Name.	：FLAMMABLE SOLID, ORGANIC, N.O.S.
Class	：4.1
Packing Group	：Ⅱ
Marine Pollutant	：Not applicable
航空規制情報	：ICAO／IATAの規定に従う。
ＵＮ　Ｎｏ.	：1325
Proper Shipping Name.	：FLAMMABLE SOLID, ORGANIC, N.O.S.
Class	：4.1
Packing Group	：Ⅱ

国内規制

陸上規制情報	：該当しない
海上規制情報	：船舶安全法の規定に従う。
国連番号	：1325
品名	：その他の可燃性物質（有機物）（固体）
クラス	：4.1
容器等級	：Ⅱ
海洋汚染物質	：非該当
航空規制情報	：航空法の規定に従う。
国連番号	：1325
品名	：その他の可燃性物質（有機物）（固体）
クラス	：4.1
容器等級	：Ⅱ
特別安全対策	：引火性溶剤を含有しているので火気厳禁。容器に漏れのないことを確かめ、転倒・落下・損傷のないように取扱い、荷崩れの防止を確実に行う。
緊急時応急措置指針番号	：133

１５．適用法令

化審法	：優先評価化学物質（法第２条第５項）
労働安全衛生法	：第２種有機溶剤等 （施行令別表第６の２・有機溶剤中毒予防規則第１条第１項第４号） 作業環境評価基準（法第６５条の２第１項） 名称等を表示すべき危険物及び有害物（法５７条１、施行令第１８条） 危険物・引火性の物（施行令別表第１第４号） 名称等を通知すべき危険物及び有害物 （法５７条の２、施行令第１８条の２別表第９）
消防法	：第２類　引火性固体
大気汚染防止法	：特定物質（法第１７条第１項、政令第１０条） 有害大気汚染物質　（法第２条第１３項、環境庁通知） 揮発性有機化合物　法第２条第４項（環境省から都道府県への通達）
海洋汚染防止法	：危険物（施行令別表第１の４）
外国為替及び外国貿易法	：輸出貿易管理令別表第１の１６の項（２）
船舶安全法	：可燃性物質類・可燃性物質（危規則第２，３条危険物告示別表第１）
航空法	：可燃性物質類・可燃性物質（施行規則第１９４条危険物告示別表第１）
港則法	：危険物・可燃性物質（法第２１条２、則第１２条、昭和５４告示５４７別表二）
道路法	：車両の通行の制限（施行令第１９条の１３）
特定有害廃棄物輸出入規制法（バーゼル法）	：廃棄物の有害成分・法第２条第１項第１号イに規定するもの（平５三省告示２号）
参考データ（日本産業衛生学会許容濃度）	：許容濃度勧告物質
化学物質排出把握管理促進法（ＰＲＴＲ法）	：第２種指定化学物質（法第２条第３項、施行令第２条別表第２）
労働基準法	：疾病化学物質 （法第７５条第２項、施行規則第３５条・別表第１の２第４号１・昭５３労告３６号）
廃棄物の処理及び清掃に関する法律（廃掃法）	：特別管理産業廃棄物（法第２条第５項、施行令第２条の４）

１６．その他の情報

ＪＩＳ　Ａ　５５３７　『木れんが用接着剤』　ＪＴＣＣＭ　認定番号　ＴＣ０４０８０１５　Ｆ☆☆☆☆

建材からのＶＯＣ放散速度基（日本接着剤工業会）	４ＶＯＣ基準適合　ＪＡＩＡ－４０１６９５
連絡先	情報なし

参考文献	独立行政法人製品評価技術基盤機構（NITE）「GHS分類結果データベース」 日本ケミカルデータベース株式会社　法規制データベース「ezCRIC」 日本ケミカルデータベース株式会社　「ケミカルデータベース」 製品安全データシート指針（日本化学工業協会） 化学物質等の危険有害性等表示制度（労働基準調査会） 化学物質安全性情報の提供について（食品薬品安全センター） 14906の化学製品　化学工業日報社（2006） 化学品法令集　化学工業日報社（1991）
その他	危険有害性の評価は必ずしも充分ではないので取扱いには注意して下さい。 記載内容は、現時点で入手できる試料・情報及び試験に基づいて作成しておりますが、新しい知見により改訂される事があります。 全ての化学製品は、未知の有害性があり得るため、取扱いには充分注意する必要があります。又、記載内容は安全性に関する情報提供であって、製品の保証書ではありません。 注意事項は、通常の取扱いを対象としたもので、特別な取扱いをする場合は用途・使用方法に適した安全対策を実施の上、ご使用下さい。